

評価部会

学園開園 10 周年にあたり、評価部会では開園以来の学園評価アンケートデータや、子どもたちの生活アンケートに注目し、変化があるかどうかなどを検討しました。ただ、細かい数値の動きにとらわれるのではなく、結果を見て、それをきっかけとして、いろいろな意見が出てくるのが大切ではないかと話し合いました。

学校評価は、学校の取り組み、保護者の悩み、地域の思いをそれぞれ伝え合い、学校をよりよくするために行います。何より、子どもたちのために、先生方が元気であることを応援するものであってほしいと願います。

(今年度の学校・学園評価については、学園通信や学校だよりをご覧ください。)

コーディネート部会

今年度も学校からのサポート依頼に応じて、たくさんの保護者や地域の方から“子どもたちの学び”へのご支援をいただき、ありがとうございました。30 年度の活動において、おおさわ学園でのサポート隊参加の延人数(2 月集計分まで)は 2,000 名を超えるご協力がありました。

来年度からサポート隊募集システムの運用を始めます。サポート隊募集のお知らせをメールにて配信し、返信していただけます。どうぞご登録をお願いします。

<31 年度の検定予定>

| | | | |
|---------|---------|--------------|-----------------------|
| 漢字検定 | 七中生対象 | 6 月 14 日(金) | 会場：第七中学校 |
| | 小・中学生対象 | 10 月 18 日(金) | 会場：第七中学校・大沢台小学校・羽沢小学校 |
| 数学・算数検定 | 小・中学生対象 | 8 月 24 日(土) | 会場：大沢コミュニティセンター |

広報部会

今年度、CS 便りは 3 回発行し、大沢コミュニティ祭、大沢里秋まつりなどに店出し、広報活動を行いました。

おおさわ学園のホームページ <http://mitaka-schools.jp/ohsawa/index.html>

CS 古本リサイクルにご協力をありがとうございました

3 学期に、今年度の古本市の収益で寄贈する本を、各校の司書さんを選んでいただきました。大沢台小では、『おしりたんていプッ ゆきやまのしろいかいぶつ!?』『わけあって絶滅しました』など、羽沢小では、『オリンピックのおばけずかん』『ハーブ魔女とふしぎななぎ』など、それぞれ 6 冊ずつの新本を図書館用に購入できました。七中では、学級と図書館用に、『きみの友達』『TUGUMI』『ツバキ文具店』など 50 冊もの中古本の選書を楽しみながらくださったそうです。2 学期に図書委員が学級文庫に選んだ本とあわせて、今年度は三校に 100 冊以上のプレゼントになりました。子どもも、大人も本をめぐってワクワクする・・・CS 古本リサイクル活動を、今後ともよろしく願いいたします。



平成 30 年度コミュニティ・スクール委員会に

11 月 22 日 寝屋川市・釧路町 1 月 17 日 文科省 の方々が視察に来られました。



おおさわ学園

おおさわ学園コミュニティ・スクールだより

おおさわ学園コミュニティ・スクール委員会/会長 倉田 清子

平成 30 年度 CS 委員会の集大成!

おおさわ学園 CS キャラクター 『さわっち』



——勝野先生は今年、学園長として赴任なさいましたが、以前にも七中に勤務していたそうですね。

勝野 16、17 年前、七中の教頭をしていました。ここは当時から自然の豊かさ、子どもたちの人柄の良さが印象的でした。今は CS のおかげで学校が地域と関わりやすくなっています。倉田さんは CS にどういう経緯で入ったのですか。

倉田 私は最初、保護者の一人として CS に入り、もう 9 年たちます。学校の中に入りいろいろなことをやるにつれて、地域の顔見知りも増え、そうすると、このことはあの人に頼めるとか、学校と地域のつながりを生み出せるようになってきました。

勝野 CS のありがたいところはそこなんです。仮に CS のない学校を想像すると教員だけではできないことがたくさんあります。特に地域との関係作りは CS に頼らざるをえません。地域で教員を知らなくても、倉田さんを知らない人はいないくらいですから(笑)。

倉田 私もこの 3 月でひとまず任期終了です。私のように毎年、CS 委員の任期が終わって地域に帰る人がいます。でも、その人たちは学校から縁が切れるのではなく、逆にいろいろな団体などに散っていくことで、学園・学校を地域に波及させる役割を担うようになると思います。

勝野 CS 委員である、なしにかかわらず、地域社会が学園・学校と密接な関係であることを、私も望んでいます。

——CS が地域と学校の間を結びと言いますが、具体的にはどんなことがありますか。

倉田 たとえば、学校に言いたいことや頼みたいことがあるけど、直接は言えないということがありますよね。CS はそれを受けることが大切だと思っています。

勝野 相談を受けてくれる相手がいるということは、地域の方も安心ではないでしょうか。

倉田 ボランティアもそうですね。地域のお祭りや行事などを七中生に手伝ってもらいたいという声に応え、たくさんの生徒がボランティアとして参加しています。これは一方で、地域の大人たちが次の時代を担う若者を育てるチャンスでもあります。「今の子は雑巾ひとつ絞れない」と言われますが、それなら活動の中で教えてあげればいいのです。

勝野 そうやって育った子ども達が今度は大人になって次の世代を育てていく、そんなバトンパスができる地域はすばらしいですね。

倉田 もちろん大沢で育った子が大沢でバトンパスをするのが理想ですが、そうとは限りません。ですが、たとえ大沢でなくても、移り住んだその土地で、恩恵を受けたものはきちんと返せる人になってほしいと願っています。

勝野 実は、今年、学園開園 10 周年を迎えたので、10 年前の開園式の資料を改めて読み返してみたのです。すると、驚いたことに、当時と今、同じなのですね。子ども達の言葉には、地域の良さとして「自然が豊か」「地域が優しい」「挨拶が多い」など、今年と同じ言葉がいっぱいありました。

倉田 10 年間何もなかったわけではありません。いろいろなことがあったけど、子ども達の目に同じものが映るよう維持できたのは、地域の人たちの努力があったおかげです。

——最後に、大沢の地域でこれだけは残しておきたいと思うことは何ですか。

倉田 大沢の子はみんな地域が大好きです。そんな、本気で好きと言える気持ちを残してほしいですね。

勝野 ここは児童・生徒たちが安らげる地域です。地域の方々を支えてくださるからと、いつもありがたく感じています。そんな安らげる場所をいつまでも残していただければと思っています。



平成 30 年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰受賞!

おおさわ学園(大沢台小学校・羽沢小学校・第七中学校)は、開園 10 周年を迎え、この度、おおさわ学園コミュニティ・スクール委員会が、「平成 30 年度『地域学校協働活動』推進に係る文部科学大臣表彰」を受賞いたしました。

おおさわ学園の子どもたちの未来のために、今、何が必要なのか、そのために学校、地域、家庭は、何ができるのか

CS委員会「熟議」より

『おおさわ学園「学び」のスタンダード ・時間を大切に ・言葉を大切に ・「なぜ」を大切に』を具体化する

ために、今年度の重点テーマとして

★考えを深め、その先の一步を踏み出そう！ ★豊かな言葉でコミュニケーション！大人も子どもも、自分から！

この二つのテーマに絞り、CS委員会実行プランを作成

その1

七中生と地域と一緒に考える七中ボランティア

昨年、おおさわ学園の先生方とCS委員の懇談会が行われ、おおさわ学園の子どもたちは「積極性が足りないところがある」「もう一步を踏み出せない」という意見が出ました。今、おおさわ学園の子どもたちは積極的にボランティアに参加しています。そこで子どもたちはボランティアの中で何を学び、どのような意見を持っているのか。また受け入れる側の地域は子どもたちに何ができるのか。ボランティアを通して子どもたちにさらに上のステップへと成長してもらいたい。そこでボランティアに特に力を入れている七中生と地域の方を招き、意見交換を行いました。

ボランティアを経験して良かったこと

人と触れ合うことの大切さを学べた

いろんな生徒と知り合えた

七中生の意見

地域の方々の意見



ボランティア活動で困ったことや改善点

指示が少なく、何をすればいいかわからなかった

ボランティアで何を学ばせたいのか、どんな成果があったのか地域に伝えてほしい

積極的に活動している子のボランティア精神が、一歩を踏み出せない子の背中を押せるのでは

地域社会でボランティア活動に参加したことがある子どもの割合

| | |
|---------|-------|
| 七中 | 89.4% |
| 東京都(公立) | 52.2% |
| 全国(公立) | 51.8% |

+37.6%

地域の皆様とお話とふれあいの会の開催

その1
七中生と地域と一緒に考える七中ボランティア

その2
CS井戸端会議



ボランティアで今後やりたいこと

小、中学校で交流したい

三鷹の他の中学校と活動したい

大沢ならではの自然や地域性を活かした活動をしてほしい

清掃などの活動を通して地域を知って防災に繋げてほしい



その2

CS井戸端会議

おおさわ学園の子ども達に必要なチカラ。

『言葉のチカラ、コミュニケーションのチカラ、少し先を考えるチカラ、困難を乗り越えるチカラ、その先の一步を踏み出すチカラ・・・。それは私たち大人にも必要なチカラ。』

そんなあれこれを「井戸端会議」のような雰囲気、保護者・地域の方、CS委員、みんなでわいわい話す会を3月7日(木)大沢台小図書館にて開催しました。

当日は、CS委員でもある作家 奥泉光氏の特別講演『小説を楽しく読むために』

を楽しんだ後、各テーマに沿った「井戸端会議」が行われ、家庭や地域で子ども達のチカラを伸ばす実行プランが挙げられました。

また意外と知らない「小・中一貫教育って？七中はどんなところ？」をテーマにした輪では、小学校と中学校の保護者間の会話が弾みました。



ふれあいの会を終えて、

積極性に欠けると言われるおおさわ学園の子どもたちですが、積極的にボランティアに取り組む姿が見られました。また地域の大人たちに対して、きちんと自分の意見を述べる生徒に対して感嘆の声も上がり、普段見る機会が少ない生の子どもの姿を見ていただく貴重な機会となりました。

今後さらに様々な行事に関わり、多くの人と触れ合いたいという意見もたくさん挙がりました。中には活動の幅を広げ、他校の生徒と連携することで「三鷹を良くしたい」という生徒も見られました。地域のボランティアに対する姿勢から、おおさわ学園の子どもたちの地域愛の強さを感じることができます。これらは地域の方々に子どもたちを温かく受け入れていただいていた積み重ねです。

課題はまだありますが、ボランティアを通して子どもたちが地域と繋がることが、大沢を強く元気にしていきます。

そして子どもたちにはおおさわ学園出身として、大きく成長してほしいと思います。